

## 全国中学校バスケットボール大会 審判派遣報告

報告者：中島弘幸

期 日：8月21日～23日

会 場：北海道立総合体育センター（きたえーる）

北ガスアリーナ札幌

担当ゲーム：女子予選リーグ 勝山(四国) v s 八王子第一(関東)

女子決勝トーナメント1回戦 四日市メリノール学院(東海) v s 陽南(関東)

### 【担当2ゲーム報告内容】

○女子予選リーグ 勝山(四国) v s 八王子第一(関東)

CC：中島 U1：佐藤泰幸(新潟 B) U2：庄司望美(北海道 B)

○女子決勝トーナメント1回戦 四日市メリノール学院(東海) v s 陽南(関東)

CC：松本成生(山口 A) U1：中島 U2：山下裕貴(石川 B)

- ・リードのベーシックなメカニクスとして、「クローズダウン」を細かく使うことの重要性が再認識された。ローテーションが遅くなってしまうことや、途中で躊躇してしまう原因として、クローズダウンポジションよりも広がった位置にいる時間が長いことがあった。
- ・「ポジションアジャスト」について、自分のプライマリにいるプレイヤーにボールが渡ってからポジションを取り始めるのではなく、プレイヤーがボールをレシーブする動きからとらえ、どの位置でプレーに備えるべきかを判断できるようになることを追求したい。例えばアウトサイドプレイヤーがフレアスクリーンを使ってボールをレシーブしようとしているならば、レシーブする位置を考えて先にポジションアジャストの動きを開始できれば、すぐにショットがあったとしても、3Pラインの確認やファウルの見極めなど、いわゆる FUL の確認がより確実にできる。
- ・「アウトオブバウンズのヘルプ」について、基本はリードが確証を持ってディレクションを示すが、やはりセンターの目の前からエンドラインにボールが出ていくケースでは、リードが間違っただけのものや、訂正するよりも、ヘルプを求めてセンターが示すことを、クルーワークとしてスムーズにできるようにする。いつヘルプを求められてもいいように、センターも自身の目の前からボールが出ていくケースや、リードからは見づらいケースを理解した上で、準備をすることが大切である。
- ・「EOQ, EOG」について、特に残り5秒以下になってから、ボールコントロールが変わり、センターがクロックを担当するケースの際に、担当が自分になったことをセンターが認識できていないと、特にラストショットよりも終了のブザーが早かったケースのように、はっきりとノーカウントを示すことが求められる場面では、そのショットが入った場合に、曖昧で弱いプレゼンになってしまう可能性があるため、やはりラストワンプレーはクルーとして常に自分が担当する心構えでいることが大切である。

### 【派遣にあたり】

北海道協会の鈴木審判委員長はじめ審判員の皆様には、我々派遣審判員のために、準備から当日の大会運営に多大なるご尽力を賜りました。また派遣に際しまして、原田審判長はじめ鹿児島県審判委員会の皆様に御高配をいただき、感謝申し上げます。誠にありがとうございました。